

# ICT導入のきつかけに

## 地元経営者向けセミナー

東北整備局

東北地方整備局は8日、ICT地元経営者向けセミナーを仙台市のハーネル仙台で開催した。ICT導入のきつかけをつかもうと約20人が参加し、地域に根ざした企業でICT活用に行き先を取り組む2社から取り組み事例などを学んだ。

初めに、東北整備局企画部の布宮明道施工企画課長が、「地域に根ざした企業からはメリットが見えないや機器が高価、対応できる技術者がいないなどを背景に、ICT活用が進んでいない。こうした皆さんにも理解を深めてほしい」との思いから、このセミナーを計画したと経緯を説明。さらに「ICT活用が進まなければ生産性向上にもつな

がらず、ひいては若い人材も入ってこない。きょうのセミナーをICT導入のきつかけにしてほしい」とあいさつした。

この後、ICTトッププランナーとして渋谷建設（山形市）の柿崎洋取締役工務管理部長と泰昌建設（同）の澁谷和取締役の2人が講義。初期費用、必要な機器といった導入部分から、実際の活用事例などを紹介した。

また、事前に募集した質問のうち、小規模工事にICTを展開していく上での戦略について「内製が必須となる。そうすることで費用の持ち出しが無くなり、どのような規模でも対応でき、人員削減や時間短縮につながる」とアドバイスした。

